

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1070100902
法人名	医療法人社団 生方会
事業所名	グループホーム「陽だまり」
所在地	群馬県前橋市表町2-27-20 (電話) 027-225-1165

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-25
訪問調査日	平成 20年 10月 17日

【情報提供票より】(20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 10年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000~123,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.5歳	最低	79歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生方医院 吉野医院 布川歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存の建物を改修して事業所としているため居室の広さや形は様々であるが、利用者・家族の好みや思いが反映された居室作りに工夫が見られる。利用者の生活歴や家族からの情報、家族関係等の個人情報収集して、一人ひとりに対応した適切な支援を行っている。終末期における事業所としての指針が策定されており、利用者・家族・職員など関係者が共有しながら、状態の変化に応じて随時その後の対応について話し合い、家族からの希望があればホームでの看取りを行っている。設立時より地域の中で生活することを重視しており、地域の人々との交流を大切にしている取り組みが行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価においては特に改善課題は見られなかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価の目的や意義について職員は理解しており、今回の自己評価は全職員で作成した。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、事業所から運営状況報告や行事予定をお知らせしている。出席者から意見や要望を聴いて、話し合い、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に相談及び苦情申し立て窓口を明記している。家族に運営推進会議の案内や議事録を送付している・家族の来訪時に気軽に話の出来る雰囲気作りに留意している。家族から「足が弱くなっているので、出来るだけ外に出る機会を作って欲しい」との要望があり、本人の体調を考慮しながら要望に添えるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会主催の廃品回収、お祭り、虫駆除作業等の行事に参加して交流を図っている。又、法人や事業所の行事(納涼祭やバーベキュー等)には地域の人達に参加を呼びかけて多くの方の参加を得て、交流を深めている。中学生の体験学習の受け入れや地元保育園や小学校の運動会への参加、近所の交番と交流等、いろいろな人との触れ合いの機会を作り、地域との連携を図るように努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時に地域の中で生活することを意識しながら、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し職員の目に触れるようにしている。管理者、職員はミーティング、カンファレンス、日頃の係わりの中等でお互いに理念を確認しながら、実践に向けて取り組んでいる。時にはメールで情報交換をすることもある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の廃品回収、お祭り、虫駆除作業等の行事に参加し、交流を図るように努めている。法人や事業所の行事である納涼祭やバーベキューの際には地域に呼びかけ、地域の人達、家族、利用者、職員が共に楽しみ交流を深めている。中学生の体験学習の受け入れや地元保育園や小学校の運動会に参加する等、交流の機会を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を全職員が理解しており、今回の自己評価は全員で取り組み作成したものである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に開催しており、ホーム側から運営状況報告や行事予定をお知らせしている。出席者から意見や要望を受けて意見交換をし、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告書類等の提出時にホームの状況を知らせたり、相談事に向いて行き来する機会を作っている。時には電話で相談する等、お互いの連携を深めてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議の議事録を家族に配送している。利用料の納付に毎月家族が来訪するので、写真等を見せながら日頃の暮らしぶり、健康状態、職員の異動等をお知らせしている。金銭管理については出納帳を示し、確認を得ている。状況に変化がある場合は電話で報告することもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談及び苦情申立窓口を明記している他家族の来訪時には気軽に話の出来る雰囲気作りを留意している。例えば家族から「足が弱くなっているので出来るだけ外に出る機会を」との要望があり、体調等を考慮しながら出来るだけ要望に沿えるよう対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所開設以来、職員の異動は利用者への影響を考え、最小に抑えている。新入職者に対してはまず当ホームの説明をし、一連の仕事の流れや業務内容等を約半年で習得して、自立出来るよう指導している。夜勤の場合は約3回、先輩職員が共に業務について指導、学ぶ機会を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体拘束研修、感染症研修、実践者研修、実践リーダー研修等法人内の研修や外部研修には積極的に参加するようにしており、内容については会議で報告し、全職員が共有している。資格習得については事業所として応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。連協主催の研修会やグループホーム大会に参加して、情報の交換や交換研修をしてケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族等に見学をしてもらい利用者と一緒にお茶を飲みながら全体の雰囲気を感じてもらい、納得してからの利用をお願いしている。入居後の状況により家族の宿泊、家族への電話等の対応や散歩・趣味の話等により気分転換を図る等、少しずつ馴染めるような配慮を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、日常生活の中で昔の話を聴いたり、草取り、そばの切り方、煮物の仕方、心遣いの大切さ等を教えてもらうことも多い。共に学び支えあう関係作りを大切にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦や本人との会話、表情等から思いや希望を汲み取るようにしている。日常生活の中で出来ることや好きなことを把握し、それらの情報を基に、買い物・散歩・出前の注文など、日々の支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から日頃の係わりの中で要望等を聴き、アセスメントを参考にして担当者が素案を作成、全職員でモニタリング・カンファレンスを行って計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に介護計画の見直しは3ヵ月に1回行っている。日頃気付いた事をメモに残し、月1回の会議で(必要の場合は家族も含めて)利用者の状況を確認しながら話し合っって記録している。又、状態の変化に伴い、随時、現状に即した見直しをして、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリ施設への付き添い、買い物同行、病院(耳鼻科等)の通院支援、コンサートや作品展への同行、自宅へ柿をとりに行く等、柔軟な支援体制が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。疾患により通院支援をしたり、往診をお願いしており、病状については家族に報告している。協力医療機関との連携は蜜に行い、気軽に相談や助言が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化対応指針について説明し、本人・家族の意志の確認を得ている。状態の変化に応じて家族を含めてその後の方針を話し合い、希望に沿った対応に取り組んでいる。これまでに2人の方の看取りを経験している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応を行っており、特に言葉かけについては配慮している。個人情報の観点から面会ノートの設置場所の工夫をしている。電話の問い合わせには十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとして食事の時間は決められているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの状態や希望に沿って買い物・テレビ観賞・昼寝・読書・起床や就寝の時間等、柔軟な対応に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接病院から栄養バランスの取れた食事が提供されており、年に2回、利用者の好みや希望を聞き食事の内容に反映させている。利用者と職員は同じテーブルで共に食事を楽しんでいるが、最近では利用者のADLの低下により介助の量が多くなってきている。食器の工夫や、出前、外食等を取り入れて食事が楽しいものになるような配慮をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望に沿っていつでも入浴の出来る体制が出来ている。基本的には2時からとなっているが、午前や夕食後にも対応するよう取り組んでいる。入浴を拒否する方には言葉かけの工夫や、清拭で対応することもあるが最低週に2回の入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴・能力・趣味等の情報を把握し、買い物・散歩・洗濯物たたみ・草取り・年賀状書き・家族への電話・公園の散歩・お花見・外食・毎年恒例のハロウィンなど役割、気晴らし、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生鮮市場や大型スーパーへの買い物・散歩・庭の水やり・季節の花見等、出来るだけ戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の状況の把握や職員の見守り等により、日中は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で、法人全体の訓練を年に3～4回、ホーム独自としては年に2回の避難訓練を行っている。災害に備えての飲料水の確保や消火器使用の実習等も行われている。推進会議等において地域の人達に災害時の協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりバランスの取れた食事が提供されている。食事や水分の摂取状況を毎日記録して、職員は情報を共有しながら日々の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの随所にソファや椅子・一角にベットを配して、ゆっくりと過ごせる場所作りの工夫が見られる。観葉植物や季節の花等を飾り、壁面に絵画や行事の写真を掲示して居心地良く過ごせる工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真・整理ダンス・化粧道具・家族手作りの品物・鏡・加湿器・使い慣れた寝具等が持ちこまれ、利用者の好みや家族の希望を取り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような居室作りが出来ている。		